

看図作文授業レパートリーの構成（Ⅱ）

—「問題－解決」構造をもった作文を書かせるための絵図の作成—

鹿内 信善 山下 雅佳実 石田 ゆき

The Repertory of “Kanzu” Composition Practices (Ⅱ)

Nobuyoshi Shikanai Akemi Yamashita Yuki Ishida

I. 問題と目的

聴覚特別支援学校に提供する教材と方法

筆者らは現在、科学研究費を得て「聴覚障害児の言語活動を充実させる看図アプローチを用いた教材開発・授業開発」研究を行っている。看図アプローチとは「見ることを重視した授業づくりの方法である。「見ること」は聴覚障害児（者）が学習をすすめていく上で最も重要なメディアとなる。このことは聴覚特別支援教育の現場でも認識されている。例えば福岡聴覚特別支援学校校訓の第一番目が「見る」になっている。「見ること」を重視した看図アプローチは、聴覚障害児の言語活動を充実させるための有効な授業方法となる（鹿内2018a, 2018b）。

しかし、日本の教育では、話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと、の4領域の指導によって国語学力が形成されてきた。「見ること」領域は、改訂された学習指導要領（文部科学省2018）にも含まれていない。これは英語圏の多くの国が国語科（言語科）カリキュラムに「見ること」領域を取り入れている（奥泉2018）のとは対照的な現象である。

学習指導要領に「見ること」領域が含まれていないため、日本では「見ること」の指導法に関する研究はほとんどなされてこなかった。この欠落を補うために考案されたのが「看図アプローチ」である。看図アプローチでは、ビジュアルテキストを読み解き、読み解いた内容を発信していくことを基本的な学習活動としている。また看図アプローチは、有効な協同学習ツールとなる（鹿内2015）。したがって、看図アプローチは新学習指導要領が掲げる次の目標達成を支援するツールにもなる。「（2）筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。（p.31）」

現在福岡聴覚特別支援学校では、幼稚園・小学部・中

学部を含む全校体制で看図アプローチを取り入れた授業づくりに取り組んでいる。また、その取り組みの成果についての学会発表（天野他2018）も行っている。聴覚特別支援学校での看図アプローチ実践は進展している。それに伴い、さらに多くの教材開発・授業開発も必要になってきている。しかし、聴覚特別支援学校に在籍する児童・生徒数は少ない。例えば2018年度福岡聴覚特別支援学校の中学部1年生は3名のみである。このため、聴覚特別支援学校のみをフィールドにして看図アプローチの教材開発や授業開発をしていくことは難しい。われわれはこれまで、聴覚特別支援学校への提供も視野に入つつ看護教育領域での教材開発・授業開発研究を行ってきた（山下他2017, 2018）。本稿でも、聴覚特別支援学校に提供するために、聴者を学習者として行った教材開発・授業開発研究成果を報告していく。

作文指導について

小学校で指導される作文の文種は様々である。例えば、観察記録・日記・手紙等である。新学習指導要領1年生の「書くこと」領域に次の項目も入ってきている。「（2）ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。（p.30）」小学校1年生から物語作文が求められているのである。

作文を書かせるためには、取材指導と構成指導が必要である。作文の時間によく聞かれる児童・生徒の不満は次の2つである。「書くことがない」「どう書いていいかわからない」。これらは、教師の取材指導と構成指導がうまくいっていないために出てくる訴えである。作文の時間に「書くことがない」「どう書いていいかわからない」と言わせないために考案されたのが「新しい看図作文」である。看図作文はもともとは中国で行われていた作文指導法である。鹿内は、中国の看図作文に心理学や物語論の成果を取り入れ、学習者の動機づけを高める「新しい看図作文（以下、単に『看図作文』と略記）」を開発してきた（鹿内2003, 2010, 2014）。看図作文は、絵

図を読み解き、読み解いた内容を作文にまとめていく方法である。看图作文は看图アプローチのルーツであり、かつ看图アプローチのレパトリーのひとつでもある。

看图作文では、作文の構成指導を次のように考えている。

「物語論」という研究領域があります。「物語論」では、物語は「一定の構造」をもつと考えられています。その構造の中でも、「問題-解決」構造は最も重要なものです。「問題-解決」構造をもつ作文を書くと、私たちが普段読んでいる「物語」によく似た作品ができ上がります。(鹿内2014, p. 123)

看图作文は、物語作文の指導に適している(鹿内2014)。しかしどのような絵図を用いても、看图作文を書いてもらえるわけではない。また、「物語作文を書いてください」と言っても「物語作文」を書けるわけではない。「問題-解決」構造をもった物語作文を書いてほしいときには、「問題-解決」構造を引き出しやすい絵図を用意しておかなければならない。

われわれは看图作文用絵図を数多く開発してきた。絵図開発の試行錯誤を重ねる中で、学習者の作文活動を引き出しやすい絵図の条件も明らかになってきた。看图作文用絵図に相応しいのは適度な「曖昧さ」「欠落」「空白」「問題状況」等の条件を含むものである。

われわれはこれまで、絵図開発と授業開発にウェイトを置いた研究を行ってきた。授業レパトリーを増やすことに重点を置いてきたため、絵図の条件と学習者が産出する作文の関係について詳しく検討してこなかった。看图作文用絵図の制作は、「看图作文アプローチ研究会」専属アートスタッフ「石田ゆき」が行っている。ひとつの絵図あるいは絵図セットを開発するとき、まず本論文第一筆者鹿内が基本コンセプトを考える。それをアートスタッフに伝え、議論を重ねて制作に取り掛かってもらっている。

前述したように、よい絵図には「適度な」曖昧さ・欠落・空白・問題状況が必要である。しかし、何が「適度」であるのかという重要な判断を、これまではアートスタッフのアートセンスに委ねてしまっていた。看图作文研究をさらにすすめていくために、看图作文に適した絵図の条件について分析を深めていくべき段階にきている。

そこで本研究では複数の絵図セットを制作し、聴者である学習者に看图作文を書いてもらう。それにより、どの絵図セットが看图作文用絵図として選ばれやすいかを調べる。また、それぞれの絵図セットから引き出される「問題-解決」パターンの違いについて調べていく。そ

の研究成果は聴覚特別支援学校で行う今後の実践に提供していく予定である。

II. 方法

学習者ならびに教材絵図

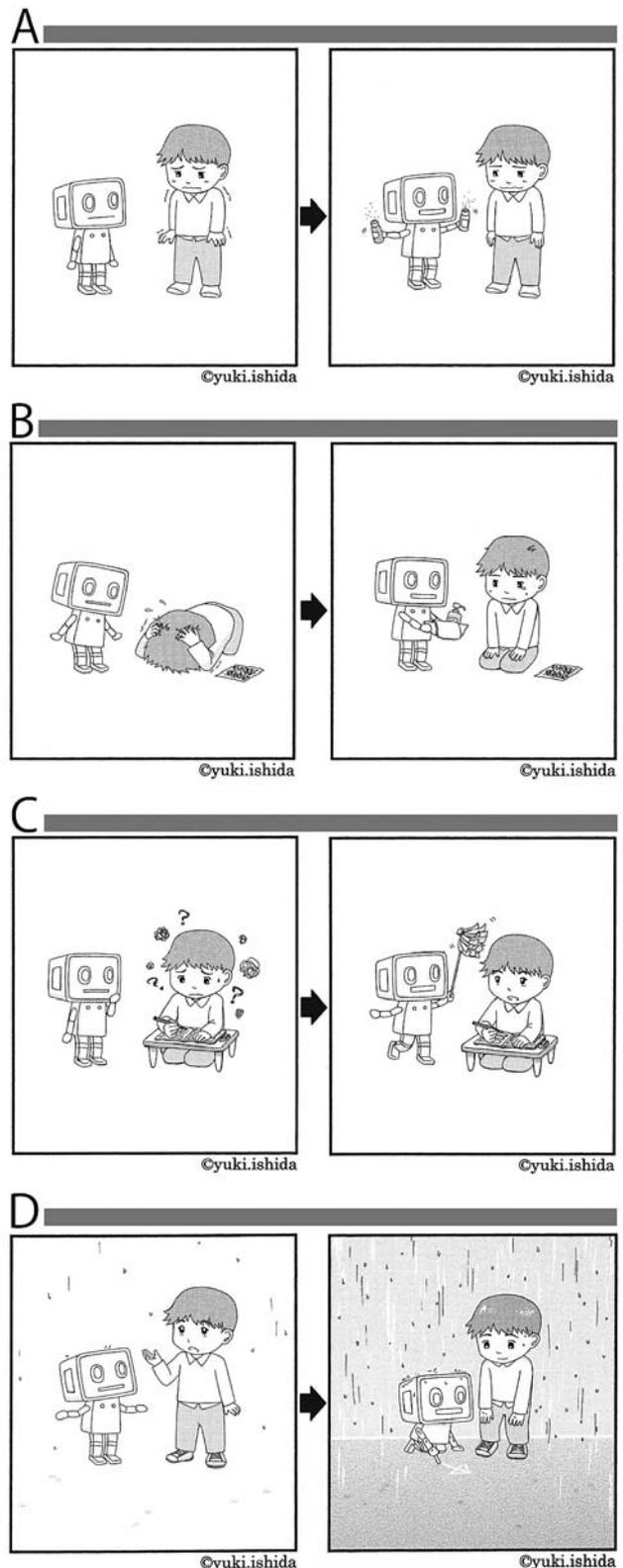


図1 教材に用いた絵図セット

学習者は「発達と学習の心理学」を履修している大学生137名。教材絵図は図1に示す。図1の教材絵図は看图アプローチ研究会専属アートスタッフのオリジナル作品である。アートスタッフには次のことを伝えて、各絵図の制作を依頼した。「絵図は2枚で1セットであること。1枚目では『問題状況』が描かれていること。2枚目では『問題解決のきっかけ』が描かれていること。いずれの絵図にも多様な読み解きを許容する『曖昧さ』が含まれていること。絵図は複数セット用意すること。各セットに登場する人物あるいはキャラクターは同一にすること。」これらの条件で制作してもらったのが図1である。絵図セットは全部で4つある。

教示

「配付した4組の絵図セットからひとつを選び、看图作文を書いてください。字数は400～800字です。多少オーバーしてもかまいません。」

学習者はすでに看图作文を2回体験している。このため上記教示のみで看图作文が書けるようになっている。またこの看图作文は授業外の時間で書くように依頼した。

倫理的配慮

本研究は、本論文第一筆者の前任校において研究倫理審査を受け「承認」の判定を得ている。

Ⅲ. 結果と考察

各絵図セットを選択した人数

絵図セットA-23名・絵図セットB-45名・絵図セットC-35名・絵図セットD-34名。なお、受講者は139名であるが、作文を提出したのは137名である。回収率は98.6%である。これら4つの絵図セットの被選択率に有意な差はない($\chi^2=7.0876$, $f=3$, $p>.05$)。

しかし、絵図セットBが最も多くの学習者から選択されている。絵図セットAは最も少ない学習者から選択されている。絵図セットBを選択した人は絵図セットAを選択した人の2倍近くいる。これらの結果は、教育実践においては考慮されるべき情報である。例えば、4つの絵図セットを順番に使って何日かに渡る授業を組み立てる場合などである。このとき、4つのセットの被選択率に統計的に優位な差がないからといって、最も被選択率が低い絵図セットAから授業を始める授業者は少ない。少なくともわれわれはそうしない。

また絵図セットAを用いる場合と絵図セットBを用いる場合では、授業方法を変えなければならないこともある。そこで次に、各絵図セットを用いて書かれた作文の

「問題-解決」構造に特徴的な違いがあるかどうかを見ていく。

作文に書かれた「問題-解決」構造

典型的な物語は「問題-解決」構造をもっている。例えば「鬼が悪さをする（問題）」-「桃太郎が鬼を退治する（解決）」など。このような「問題-解決」構造は、物語作文の構成指導に活用できる。

われわれが制作した絵図をもとに書いた看图作文の中に、どのような「問題-解決」構造が記述されているかを分析していく。分析対象とするのは、最も少ない学習者が選択していた絵図セットAと、最も多くの学習者が選択していた絵図セットBである。分析は次のようにして行った。①「問題」状況がどのように記述されているか。②問題「解決のきっかけ」がどのように記述されているか。③問題の「解決」がどのように記述されているか。これら3つの観点から絵図セットA・絵図セットBをもとにして書いた作文内容を整理したのが表1・表2である。表1・表2とも論文末に掲載しておく。表中の（ ）内の記述は、本論文第一筆者が作文内容を要約したもの、「 」内の記述は、各学習者が書いた作文の原文である。本論文第一筆者が、まず表1・表2の内容をまとめた。そのまとめが適切なものになっているかどうか第三筆者が確認した。その後、第一筆者と第三筆者の合議によって、訂正・加筆を行い表1・表2を完成させた。

「問題-解決」構造をもった作文を産出した学習者は、絵図セットAでは23名中17名(73.9%)、絵図セットBでは45名中34名(75.6%)であった。比率的には2つのグループに全く違いは見られない。

絵図セットAと絵図セットBとの間の大きな違いは、問題状況設定の仕方において見られた。絵図セットBでは、「テスト」「試験」等の文脈で問題状況設定をしている学習者が27名いた。絵図セットBグループでは問題-解決構造をもった作文を産出した学習者は34名なので、そのうちの79.4%が「テスト」「試験」等に関わる「問題-解決」作文を書いていたことになる。

これに対して絵図セットAでは、問題状況設定に影響を与えるテーマや文脈に大きな偏りはなかった。「寒くて震えている」という問題状況を設定した学習者が2人いた。類似した問題状況設定をしていたのはこの2人だけである。絵図セットAでは問題-解決構造をもつ作文を産出した学習者は17名であり、そのうち15名はそれぞれ異なる視点から問題状況を設定していた。

絵図セットBは問題状況の読み取りやすさから、多くの学習者に選択されていたと思われる。「問題-解決」構造を作文の構成指導ツールとして使う場合、絵図セッ

トBは単元の導入部分での活用に適していると思われる。絵図セットAでは学習者たちは多様な視点から問題状況設定をしている。個性的な作文産出を促したいときに活用できる絵図セットであると思われる。

絵図セットBは多くの学習者が類似した問題状況を設定していた。しかし、絵図セットBを用いてもオリジナリティーの高い作文を産出する学習者はいらる。ここでは2つの作文例を紹介する。

学習者27の作文（絵図セットB）

あるところに男子中学生の和也くんがいた。和也くんは、人と話すことがとても苦手で、いつも学校にいても一人ぼっちだった。だんだん学校から家に帰ってきてても、全然話さなくなってきたとても内向的になってしまったので、ある日、見かねた母親は、しゃべるロボットを買ってきた。そのロボットは会話ができるだけではなく、動いたりすることもできてとても優秀だ。和也くんはロボットと友達になり、学校のことを相談した。本当はたくさん学校で友達を作りたいし、皆みたい楽しく人と話したいということ。するとロボットは「話しかけるのが苦手なら手紙を渡してみたらいいよ。」と言った。早速和也くんは、手紙を書き始めたが、何を書いたらいいのかわからなくてとても混乱してしまった。ついに、頭が混乱して泣いてしまった。するとロボットが、「たくさん考えても混乱してしまうだけだから、いったん気分転換にお風呂に入ってお風呂に入るといいよ。」と。和也くんは素直に受け入れてお風呂に入ってくことにした。気分転換をしてスッキリした和也くんは、ロボットと一緒にゆっくり考えながら手紙を書いた。ロボットは懸命に和也くんのそばでアドバイスをしていた。

次の日、和也くんは学校に行き、話してみたかったクラスの子に勇気をだして手紙を渡した。すると、すぐに打ち解けて学校で話すことのできる友達が初めてできた。和也くんはロボットにとても感謝をして、ロボットにプレゼントを買ってきた。プレゼントの中身は、大量の電池。和也くんは、「これでずっと一緒にいれるね。これからもよろしくね。」と言った。すると、不思議なことにロボットの目から涙が出てきた。

学習者27の作文では、ロボットが主人公の「援助者」としての役割を果たしている。この作文ではまず、「話すことが苦手で、いつも…一人ぼっち」という問題状況が記述されている（問題1）。次にロボットがこの問題を解決するための援助者として「話しかけるのが苦手なら手紙を渡してみたらいいよ。」と言ってくれる。しか

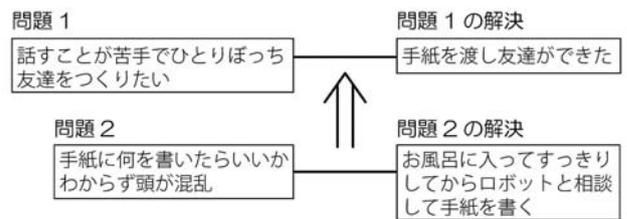


図2 学習者27作文の物語構造

しこのことから新たな問題が発生する。主人公は「手紙を書き始めたが…頭が混乱して泣いてしまった。」のである（問題2）。そこでロボットは、問題2を解決するための援助として「気分転換にお風呂に入ってくる」ことを提案する。主人公はこの提案を受け入れて、問題2は解決する。主人公は、ロボットのアドバイス（援助）を受けながら手紙を書き上げる。次の日主人公は、その手紙を「クラスの子」に渡し、「友達が初めてできた」（問題1の解決）。以上をまとめると、図2のようになる。

この作文の中で、主人公はロボットに助けられる。このような状態では、「返報性の原理」がはたらく。学習者27は、そのことも作文の中に書き込んでいる。主人公は「ロボットにとても感謝をして…大量の電池」をプレゼントする。このようなユーモア感覚も発揮された作文になっている。また作文の締めくくりの表現は次のようになっている。「すると、不思議なことにロボットの目から涙が出てきた。」これは、この作文の読み手が、ロボットにも感情移入できるように工夫された文章になっている。

以上のような解説とともに、優れた作文を鑑賞し合うことも作文の構成方法を教えるための有効な手段になると思われる。この検討は今後の課題である。

もうひとつ作文をあげておく。

学習者1の作文（絵図セットB）

どうしよう。僕はロボットという分際なのに髪の毛を生やしてしまった…。ちょっとした出来心だったんだ。僕はただ、サザエさんのカツオの髪型に憧れていたただけなんだ。つるつるの頭に少しだけ生えた髪の毛。マスオさん程の髪の毛は求めてなんかいなかった。

カツオくらいならロボットでも許される毛の量だと思ったんだ。まさか育毛剤がこんな威力を持っていたなんて思いもしなかった。こんなのワカメちゃんよりも長いじゃないか。

僕は頭を抱えて絶望していた。お母さんにばれたりしたらなんて言われるだろうか。この家から追放されてしまうんじゃないか。

「ご飯よー！」

どうしよう。この髪の毛じゃリビングになんて行けな

い。
 「ご飯冷めちゃうわー」
 お母さんが僕の部屋に向かってくる足音が聞こえる。
 お願い。来ないでくれ。
 「ごは…。ちょ、あんたどうしたの!？」
 「ごめんなさい。育毛剤使ってしまったってこんなこと
 になっちゃったんだ…。」
 僕はお母さんに叱られるという覚悟でいた。家から追
 い出される覚悟でいた。
 「あら、こんなに育毛剤ってすごいね。お母さん
 も使っちゃおうかしら☆」
 お母さんは僕の育毛剤を持って風呂場に走って行って
 しまった。僕は呆気にとられつつ、冷めかけたご飯を
 一人で食べた。

この作文の「問題-解決」構造はシンプルである。表
 2に整理した通りなので、詳しい「問題-解決」構造分
 析は省略する。学習者1の作文が優れているのは、「見
 立て」のユニークさである。絵図セットBに描かれてい
 る登場人物が「ふたりともロボットである」という見立
 てをしているのは学習者1ひとりだけであった。このよ
 うな「見立ての独自性」が作文の面白さを引き出すとい
 うことも学習者たちに共有させていきたい。多くの人が
 同じような「問題-解決」状況を書いてしまう絵図を用
 いるときは、「見立ての独自性」を引き出す「支援」が
 必要であると思われる。「見立ての独自性」を発揮して
 いる作文を学習者間で共有することは、「支援」の方法
 となるかもしれない。これも、今後の実践の中で検討し
 ていきたい。

今後の実践の中で検討していくべきことは、これ以外
 にもある。今回の研究では、すべての学習者が「問題-
 解決」構造をもった作文を書いていたわけではない。また
 「問題」状況は書いていても、その「解決」が書いて
 いない学習者もいた。協同学習を導入するなどして、「問
 題」や「解決」を考えさせる指導も必要であると思われ
 る。

聴覚特別支援学校で活用するために

本研究ではデータを集めやすいという理由から大学生
 を学習者として看图作文を書いてもらっている。本研究
 で開発した絵図は実際には、聴覚特別支援学校の小学
 部・中学部の実践に提供していく。実際に聴覚特別支
 援学校で活用する前に本研究で開発した絵図が、小学生
 でも「問題-解決」構造を引き出すかどうか確かめておく
 必要がある。そこで絵図セットAを用いて10歳児1名に
 看图作文を書いてもらった。絵図セットAを選択した学
 習者は最も少なく、今回用意した絵図の中では作文が書

きにくいものであると考えられる。そのような絵図セ
 ャットでも小学生が「問題-解決」構造をもつ作文を書ける
 ならば、今回制作した4セットの絵図の小学生への活用
 可能性は高いと判断できる。実践者は本論文第二筆者の
 山下である。その作文例を以下に示す。
 学習者(10歳児)の作文(絵図セットA)

男の子は、りょうりがへたであじつけを、どうすれ
 ばいいかわからない時に、ロボットが「自分の好きな
 ものをいれれば」といったので、男の子は、「そのて
 があったか」といいました。

この作文の「問題-解決」構造分析は次のようになる。
 [問題]「あじつけを、どうすればいいかわからない」
 [解決のきっかけ]「ロボットが『自分の好きなものを
 いれれば』といった」[解決]「『そのてがあったか』と
 い(った)」。

小学生への実践は1事例であるが、本研究で開発した
 絵図セットが「問題-解決」構造をもった看图作文授業
 に活用できることが示された。「1事例では少なすぎる」
 という批判も可能である。しかし、われわれにとっては
 1事例であっても「今回制作した絵図が小学生でも活用
 できる」という事実が重要である。例えひとりであって
 も、ごく普通の10歳児が今回制作した絵図を用いて「問
 題-解決」構造をもった作文が書けるということがわか
 れば、あとはこれらの絵図を活用した授業づくり研究に
 力を注いでいくことができる。

国語科教育における作文指導は重要な領域である。聴
 覚障害児に対する作文指導は聴者に対する作文指導より
 も一層重要な役割をもつ。作文(書記日本語)は聴覚障
 害児が日常使っている手話とは文法が大きく違ってい
 る。多くの聴覚障害児は、文法が異なる、手話と書記日
 本語の2つのコミュニケーションツールを習得してい
 かなければならない。書記日本語能力を伸ばすためにも作
 文の時間を楽しくする工夫が必要である。それを実現す
 るために看图作文の教材開発・授業開発を今後さらに積
 み重ねていく。

文 献

天野秀紀・石田ゆき・鹿内信善 2018 「聴覚特別支援学校で
 言語活動を充実させるための看图アプローチ」 『日本協
 同教育学会第15回大会要旨集録』 pp.124-125 文部科
 学省 2018 『小学校学習指導要領』(平成29年告示)
 東洋館出版社
 奥泉香 2018 『国語課教育に求められるヴィジュアル・リテ
 ラシーの探求』 ひつじ書房
 鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看图作文の授業-創造的
 [読み書き]の理論と実践-』 春風社

- 鹿内信善 2010 『看図作文指導要領-「みる」ことを「書く」
ことにつなげるレッスン-』 溪水社
- 鹿内信善 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習
の新しいかたち-看図作文レパトリー-』 ナカニシヤ
出版
- 鹿内信善 2015 『改訂増補協同学習ツールのつくり方いかし
方-看図アプローチで育てる学びの力-』 ナカニシヤ出
版
- 鹿内信善 2018a 「聴覚特別支援学校における看図アプロ
ーチを活用した授業づくり(I)-F校に対する看図アプロ
ーチの紹介活動-」 『福岡女学院大学大学院紀要発達教育
学』第5号 pp. 1-7
- 鹿内信善 2018b 「聴覚特別支援学校における看図アプロ
ーチを活用した授業づくり(II)-F校における看図アプロ
ーチの受容と実践-」 『福岡女学院大学大学院紀要発達教
育学』第5号 pp. 9-16
- 山下雅佳実・石田ゆき・福永優子・鹿内信善 2017 「看図ア
プローチ協同学習のつくり方-看護学校・保幼小中高大・
聴覚特別支援学校での活用-」 『日本協同教育学会第14
回大会要旨集録』 pp. 132-133
- 山下雅佳実・石田ゆき・鹿内信善・芳野信 2018 「看図アプ
ローチを活用した学習動機づけの促進-看護基礎教育「疾
病論」授業実践-」 『日本協同教育学会第14回大会要旨
集録』 pp. 48-49

注

1：本研究は科学研究費16K04728の助成を受けた

謝 辞

匿名の査読委員の先生から、有意義で納得のいくたくさん
のコメントを頂きました。頂いたコメントは本稿を加筆・修正
するにあたっての貴重な指針となりました。記して御礼申し
上げます。

表1 絵図セットAの「問題－解決」構造

学習者番号	作文の「問題－解決」構造
1	<p>[問題] 「僕は泣き虫で何かあったらすぐに泣いてしまう。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「(ロボットの手) マラカスではなく塩と胡椒が握られていた。『ナクナ、ナクナ、ゲンキ、ダシテ』僕を慰めてくれているようだった。…ロボットがマラカスの代わりに振っていた塩と胡椒のせいで大きなくしゃみが出た。」</p> <p>[解決] 「何で泣きそうになっていたのかも忘れてすっかり楽しい気持ちになっていた。」(実はロボットは「昔女優を目指していたお母さん」の着ぐるみを着た熱演だった)</p>
2	<p>[問題] 「(主人公は) 天才発明少年…彼には友達が少ない」「発明に成功した…ロボットを自慢したくなった」「僕に、たくさん友達の友をちょうだい！」とロボットに願う</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「口から2種類の魔法の粉を取り出した。『コレヲカケルト、キミニモトモダチガデキルヨ』」と言う</p> <p>[解決] 「学校へ着き、教室へ入ると…次から次へとクラスの子が話しかけにくる」「放課後、仲良くなった数人が(主人公の) 家に遊びに来た。さっそく彼は、ロボットをみんなに見せ、自慢した。」</p>
3	<p>[問題] 「もうそろそろ学校の奴らに仕返ししてもいいと思う。」(ロボットがとしお君にそう伝えるととしお君は) 「びっくりしすぎてもらしてしまった」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「『ジャパネット山田のフリカケタラスグカワーク』使ってみよう？」と言う</p> <p>[解決] (ふりかけると) 「からからにおしっこで濡れたズボンが乾いた。」</p>
4	<p>[問題] 「体育でとび箱をしている」「クラス全員飛べたのに俺だけ飛べなかった」「恥ずかしさと悔しさで…うううあ…」(となる)</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「この粉は僕のロボッティーセンターで作られている魔法の粉なんだ。この粉をふると、どんなに辛いことがあっても忘れちゃうくらい笑ってしまうんだ。」と言う</p> <p>[解決] 「ハハハッ！何だこれ！何もしてないのに笑っちゃう…！！」</p>
5	<p>[問題] (主人公は) 「親友のユウタくとケンカしちゃった」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは塩とコショウを持ってきて次のように励ます) 「ユウタくんは大事な親友なんだろ？君とユウタくんの仲も塩コショウさ！だからまた仲よく遊べるように仲直りできるといいね！」</p> <p>[解決] 「後日、ユウタくんとは仲直りできた」</p>
6	<p>[問題] (もうすぐバレンタイン。「ナナちゃん」がつくってくれる、不味いチョコレートを食べなければいけない。)</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「不味いチョコの食べ方」を調べてくれると言う</p> <p>[解決] 「チョコレートにシナモンパウダーとココナッツパウダーを振りかければ、不味いチョコもパリのショコラティエのようなビターなチョコレートになる」</p>
7	<p>[問題] 「科学者である母は、この国の人々を守るために、やむを得ず僕を一人、家のシェルターに残して仕事へ行っていた。」「(僕は) いつも一人シェルターの中で震えていた」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボット型の座敷童が出てきて) 「魔法の粉」を見せ「僕が魔法をかけてあげようか」と言う</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
8	<p>[問題] (いつもおままごとをしていた大好きな弟が亡くなった僕は) 「立ち直れず悲しんでいた」</p> <p>[解決のきっかけ] (両親はロボットをプレゼントしてくれて) 「ロボットの手には、塩とこしょうがあった。」</p> <p>[解決] (ロボットに弟の名前をつけ) 「毎日一緒におままごとをした。」</p>
9	<p>[問題] 「何だこいつは…。まさか、宇宙人？そう思いながら10歳のカズオはブルブルと震えながらうつむいていた。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「宇宙人のような見知らぬ生き物は両手に缶を持っていた。」(そして言った) 「実は(僕は)、君のお父さんにつくってもらったんだよ。」</p> <p>[解決] 「お父さんがつくったんだ。そして僕を驚かせるために僕が帰ってくる前に僕の部屋に置いたんだ。(そう思って) カズオの緊張はほんの少し緩んだ。」</p>
10	<p>[問題]</p> <p>[解決のきっかけ] (「夢オチ」のため「問題－解決」構造不明)</p> <p>[解決]</p>
11	<p>[問題] (父・母・兄がロボットに夢中で僕の相手をしてくれない)</p> <p>[解決のきっかけ] 「ロボットは僕を見てトコトコ歩いてきて言った。『頭の中の悲しいことはくしゃみと一緒に出してしましましょう』」と言う</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
12	<p>[問題] (僕は寒くてふるえている)</p> <p>[解決のきっかけ] 「(ロボット) は僕の大好物の豚汁を作って持ってきてくれた」「『塩コショウ』(も持ってきてくれた。そして) 『これはね、踊りながら振り掛けるんだ』」(とやった)</p> <p>[解決] 「塩コショウの入った豚汁は人生で一番おいしかった。」(あたたかくなった)</p>

13	<p>[問題] 「3歳の誕生日プレゼントでロボットをもら(った)」「ロボットが来てから毎日同じ時間8時になると体が震えるようにな(った)」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは) 『これを飲んで!』と2本の栄養ドリンクのようなものをくれました。』</p> <p>[解決] (ドリンクを飲むと「野比のび太」に変わってしまった)(ただし問題と解決が繋がっていない)</p>
14	<p>[問題] 「(ロボットが) 中古品なんだよ。だってこのまえ僕がペンギン歩きの仕方を何回も何回もやったのに(ロボットのやつ)『ほらほら～右がクエン酸で左がグラニュー糖だよお～』ってふたを開けて振りだしたんだ。家じゅうザラザラだよ。」</p> <p>[解決のきっかけ] (不明)</p> <p>[解決] (不明)</p>
15	<p>[問題] 「テレビが見たい。ただテレビが見たい。」「テレビの見過ぎで母親がマジギレして1週間くらいテレビ禁止令が出たことがあったな。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「テレビが見たくてうずうずしていると、“テレビ”が近づいてきた。」「“テレビ”の手には怪しげな粉の入った瓶が握られていた。“テレビ”は…自分の頭にそれらを振りかけて、周りにも振りかけた。」</p> <p>[解決] 「あたりが満点の星空になってい(た)」(ただし問題と解決が繋がっていない)</p>
16	<p>[問題] 「(ぼくはゆみちゃんに) 好きって言ったんだ。」「ぼくは思いっきりフラれてしまった。」「家に帰ったら、我慢できなかったみたいで、(泣きながら) 肩が震えてしまった。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「(ロボットが) 両手にピンを持って踊り始めた」「ロボットはさらにおしりをフリフリしてヒートアップしたダンスを見せてきた。」「(ぼくも) 一緒に踊ってみた。」</p> <p>[解決] 「ロボットのおかげで楽しかった。」「肉食系男子になってゆみちゃんよりもかわいい子と付き合うって決めたんだ。」</p>
17	<p>[問題] (ずっと一緒にいてくれると思っていたロボットが) 「今日が終わったら自分の星へ帰らなくちゃいけないんだ。」(と言う。主人公は) 「泣きそうにな(った)」</p> <p>[解決のきっかけ] 「(ロボットは主人公が) 泣きそうなことに気が付いていたので(主人公を) 笑わせようと思った。(ロボットは) 台所から塩と胡椒を持ってきて、(主人公の) 鼻をめがけてそれを振りかけた。」</p> <p>[解決] 「この塩と胡椒があれば(ロボットがいなくても) いつでもどこでも楽しい気持ちになれる」(と主人公は確信した)</p>
18	<p>[問題] 「僕は、…クラスの男子数人から、いじめを受けていた。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「ロボットは、『この粉を振りかけると自分の気持ちを伝えたい相手に伝えることができるよ』と言った。」</p> <p>[解決] (非解決) 「この粉を使って自分の気持ちを伝えてみようと思う。」</p>
19	<p>[問題] (主人公が) 「『最近、なんだか寒くてたまらないんだ。』」(と言う)</p> <p>[解決のきっかけ] 「ロボットは『それなら、僕、いいもの持ってるよ!』とポケットから小瓶を一つ取り出した。」「これを飲むとすっきり寒気が治る」</p> <p>[解決] 「ロボットのおかげで今は何ともない」</p>
20	<p>[問題] (主人公が) 「『くしゃみが出そうなのに出不来からむずむずしているんだ』」(と言う) 「(主人公は) 顔をしかめてプルプルしてい(る)」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは) 「『こしょうだよ!これを鼻から吸えばくしゃみが出てすっきりするはずだよ』」(と言う)</p> <p>[解決] 「こしょうを少し出して思いっきり吸い込みました。するととても大きなくしゃみが三回。(主人公は) とてもすっきりして(ロボットと) 一緒に絵本を読んで遊びました。」</p>
21	<p>[問題] 「僕が友達の鉛筆を盗んだという」(濡れ衣を着せられる。先生も誰も信じてくれない。)</p> <p>[解決のきっかけ] 「(ロボットが) 両手に胡椒をもってきて、僕の顔の近くで振った」「胡椒のせいでくしゃみが止まらずせっかく止まった涙がまた出てきた。」「(ロボットは) 『君が泣いてしまったのは胡椒のせいだよ。君はどんなに怒られても泣かない強い人だよ。母さんに鉛筆を盗んでいないとしっかり言ってきたよ。』と言(った)」</p> <p>[解決] 「言われた通り母に盗んでいないと言った。僕の必死さが伝わったのか夜ご飯を作ってもらえた。次の日学校に行くと、たけし君が自分で鉛筆をなくしていたことが分かった。」</p>
22	<p>[問題] (主人公は) 「告白するか、どうか」(迷っている)</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「このスパイスの香りを嗅いでから告白すると、うまくいきやすいらしいですよ。」(と言う)</p> <p>[解決] 「両想い」(になる)</p>
23	<p>[問題]</p> <p>[解決のきっかけ] (「問題-解決」構造なし)</p> <p>[解決]</p>

表2 絵図セットBの「問題－解決」構造

学習者番号	作文の「問題－解決」構造
1	<p>[問題] 「僕はロボットという分際なのに髪の毛を生やしてしまった」「お母さんにばれたりしたらなんて言われるだろうか。」</p> <p>[解決のきっかけ] (母の意外な考え)</p> <p>[解決] (母が) 「『こんなに育毛剤ってすごいね。お母さんも使っちゃおうかしら☆』(と言って) お母さんは育毛剤を持って風呂場に走って行ってしまった。」(お母さんには何も言われなかった)</p>
2	<p>[問題] 「テストでの不正行為常習犯だ。」「どうしたら、不正行為から手を引けるかな〜。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットに) 「相談した。」(ロボットは) 「僕にボディークリームとタオルを渡した。『これで足を洗うのだよ!』」と言った。」</p> <p>[解決] 「自分の足を洗い、不正行為からも足を洗った。」</p>
3	<p>[問題] 「ぼくはいつも失敗ばかりなんだ。なにをしてもうまくいかないんだ…。この間のテストも」</p> <p>[解決のきっかけ] (父が、自分が失敗したときの思い出話をしてくれた。父が小さい頃ロボットが) 「お風呂に入っただけでリラックスすることを教えてくれた」</p> <p>[解決] (父の話聞いて) 「元気になっ(た)」</p>
4	<p>[問題] 「いつも勉強のことで悩んでいた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが相談相手になる)</p> <p>[解決] 「自分の気持ちを打ち明けられて少しすっきりした気分になった。」</p>
5	<p>[問題] 「剛毛に悩まされていた。しかも、それでクラスメイトにからかわれている。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「ロボットが差し出した脱毛グッズを奪い取った。」</p> <p>[解決] 「脱毛クリームを塗布した。」「少なくなかつ毛が薄くなった。」</p>
6	<p>[問題] 「明日歴史のテストがあり、またみんなにバカにされてしまうのかと想像し…(主人公は) 頭を抱えながら床に突っ伏した。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが勘違いする) 「(ロボットは) 地肌に優しい弱酸性のシャンプーを渡してお風呂に行っただけで頭をきれいにしてくれるように促した。」</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
7	<p>[問題] 「悪い算数のテスト」「テストを捨ててしまおうか、悩んでいた。」「お母さんにこっぴどく叱られ」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「頭よくなるシャンプー〜!」を渡す</p> <p>[解決] 「その夜たかしくんはウキウキ鼻歌を歌いながら頭を洗った。」</p>
8	<p>[問題] 「あなたとの未来が見えません。(という手紙をもらい) 3日三晩荒れ狂っていた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「未来が見えるシャンプー」を渡す</p> <p>[解決] (シャンプーを使うと) 「もくもくと(よい) 未来が見えてきました。」</p>
9	<p>[問題] 「ママの大事なハンカチに落書きをしてしまった」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが洗剤を持ってきて) 「イッシュニアライマッシュ」と言う</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
10	<p>[問題] (ロボットの質問) 「人工知能があるがゆえに友達がいないことをとても悲しく思っていました。」・(主人公の問題) 「試験を控えたソウスケはスランプに陥っていました。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは) 「頭が良くなるシャンプーセット」をつくって主人公に渡す・(主人公は) 「(ロボットの) 友達になるロボットをたくさんつく(る)」</p> <p>[解決] (主人公は) 「海外の有名な科学大学に進学し、ノーベル賞をとるほどの科学者になった。」・(ロボットは) 「毎日楽しく過ごせるようになりました。」</p>
11	<p>[問題] 「算数のテストで…20点しか取れな(くて) 大泣きをしていました。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「お風呂セット」を持ってくる</p> <p>[解決] 「温泉に行っただけで、その悔しい思いを流(す)」</p>
12	<p>[問題] (成績が悪く) 「ショックで床に伏せ頭を掻きむしっている」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「風呂場からシャンプーと桶を持ってきた」</p> <p>[解決] 「(ロボットの) 思いがけない行動にショックが和らいだ。」</p>
13	<p>[問題] 「テストで一問だけが不正解だった。僕は頭を抱え泣いた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが) 「顔を洗ってすっきりしてからママに報告しよう。」と言う</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
14	<p>[問題] 「ケイクン8点しか取れてないよ…。頭を押さえてうずくまっている。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは) 「修正用の液を持って行った。」</p> <p>[解決] (主人公はロボットの言うことを信じて) 「テストを書き直し(た)」</p>
15	<p>[問題] 「30点だよ。母さんに怒られる。」「『どうしょ〜〜。』(と) 頭を抱えていた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが考えてくれた解決策がとんちんかんでおかしかった)</p> <p>[解決] 「(ロボットのおかげで) 点数が悪かったことなんて忘れてしまった」</p>

16	<p>[問題] (主人公が)「テストで悪い点をとって…床に座り込みうずくまって頭をグシャグシャに掻いた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは)「頭が痒いから掻いているのだと思い風呂場からシャンプーを持ってきた。」</p> <p>[解決] (主人公は)「初めて相手にありがとうと感謝の言葉を伝えられる人になっていた。」(←別の問題が解決)</p>
17	<p>[問題] 「(主人公には) 何度洗っても、頭の痒さが解消されないという」…「悩みがあった。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「『何でも願いを叶えてくれる君』という商品を発見した。」「早速開封してみると中からロボットが出てきた。」「ロボットがシャンプーセットをもって (渡してくれた)」</p> <p>[解決] 「シャンプーを使って (みた)」「頭のかゆみが解消されていた。」</p>
18	<p>[問題] 「(主人公は) 見つけてしまったのだ。十円はげを。」</p> <p>[解決のきっかけ] (泣いてロボットに助けを求める。ロボットが、髪が生えるシャンプーを持ってくる。)</p> <p>[解決] 「髪がどんどん伸びるぞ…!」</p>
19	<p>[問題] 「0点をとってしまった。」「どうしていいかわからず泣いた。頭を掻きむしりながら泣いた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットがシャンプーとタオルを渡してくれる)</p> <p>[解決] (実は0点だったのは「ルックスのテスト」。汚れていた髪を洗って解決。)</p>
20	<p>[問題] 「テストで親に知られば必ず怒られてしまうようなひどい点数を取ってしまった。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットがお風呂セットをさし出す)</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
21	<p>[問題] 「看護の技術テスト (の練習相手がいない)」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットになってしまった母親がシャンプーとタオルを持ってくる)</p> <p>[解決] (ロボットになってしまった母親が)「私、これからかつら買ってくる」と言ってくれる。</p>
22	<p>[問題] 「(主人公は) 誰もが知る天才子役。」(仕事がない日、学校に行って帰ってきた。20点の解答用紙を持って泣いていた。これはロボットに何かをしてもらうための演技。)</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは)「(主人公の) 好きなチョコレートケーキ買ってくるから、手洗って待っててね。」と言い「石鹸とタオルを渡 (す)」</p> <p>[解決] (演技は上手いきき、主人公は)「手を洗いに行ってチョコレートケーキを心待ちにしている。」</p>
23	<p>[問題]</p> <p>[解決のきっかけ] (「夢オチ」のため問題-解決構造は不明)</p> <p>[解決]</p>
24	<p>[問題] 「昆虫の採集の課題が出 (た)」「実は彼は昆虫が大の苦手」(恥をさらしたくない)</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが昆虫の蜜とビニール手袋を持ってきてくれる)</p> <p>[解決] (昆虫採集がうまくいく)</p>
25	<p>[問題] 「家に帰った途端に涙がこぼれてきた。」(予想より悪いテスト結果)</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「マスクとハンドソープを取り出して渡し…『これでしっかり風邪をひかないようにして勉強をがんばるんだ!』」と言ってくれた。」</p> <p>[解決] 「次のテストで…前回より高い点数がとれた。」</p>
26	<p>[問題] 「算数のテスト (で) 50点しか取れなかった」「絶対に怒られる! どうしよう! そう思って頭を抱えていた」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「アタマガカユイナラオフロニヒロウ!」(と言って)「洗面器とシャンプー、そしてタオルを渡して (くれた)」</p> <p>[解決] (ロボットの優しさのおかげで)「元気が出た」</p>
27	<p>[問題] ① (主人公は)「人と話すことがとても苦手で、いつも学校にいても一人ぼっち」(友達がいない)</p> <p>② (手紙に)「何を書いたらいいのかわからなくて」「泣いてしまった」</p> <p>[解決のきっかけ] ① (ロボットが)「話しかけるのが苦手なら手紙を渡してみたらいいよ。」(と言う) ② (ロボットが)「たくさん考えても混乱してしまうだけだから、いったん気分転換にお風呂に入ってスッキリしてくるといいよ。」(とアドバイスをくれた。お風呂に入ってスッキリした主人公は手紙を書いた。)</p> <p>[解決] (次の日主人公は)「話してみたかったクラスの子に勇気をだして手紙を渡した。すると、すぐに打ち解けて学校で話すことのできる友達が初めてできた。」</p>
28	<p>[問題] 「(主人公が) 高校受験に失敗した」「ショックで涙が止まらなかった。」「『私立高校に行くなら死んだほうがまだ!』と泣き叫んだ。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「まあ、まずお風呂にでも入ってきなさい。すっきりするわよ。」と言った。</p> <p>[解決] 「この口調とこの言葉は間違いなく母である。… (主人公は) 違った意味で涙があふれ、ロボットに抱きついた。」</p>
29	<p>[問題] 「学校のテストで悪い点数をとってしまった。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットがシャンプーを持ってきて)「これで頭を洗えばこんなこと忘れられるよ!」と言ってくれた。</p> <p>[解決] 「なんだか癒される。」</p>

30	<p>[問題] (主人公が)「頭を抱えて泣き続けている」「女の子に振られたそうだ」「20点のテストが原因かと思っただけだった」</p> <p>[解決のきっかけ]「人気俳優は、金髪が多(い。だから)…(ロボットは)金髪用の染髪料を買い(主人公に)渡した。」</p> <p>[解決] (非解決)「次の日、(主人公が)登校するなり先生にこっぴどく叱られ、帰らされたことは言うまでもない。」</p>
31	<p>[問題]「(ロボットは主人公が)お風呂が嫌いなことを知っているのだから何とかしたいと思っている」</p> <p>[解決のきっかけ]「何をしてもダメなので逆に放っておくことにしました。」</p> <p>[解決]「お風呂に入らない生活…7日目、(主人公は)頭がかゆくてかゆくて死にそうになって」「お風呂の大切さに気づい(た)」</p>
32	<p>[問題]「ロボットが学校に邪魔しにきたせいでテストで最低の点数を取っちゃうし」</p> <p>[解決のきっかけ]「泣き崩れた僕に、出来損ないのロボットがこう言う。『オフロデモハイリナヨ。』」</p> <p>[解決] (非解決) (ロボットが壊れてしまう)</p>
33	<p>[問題]「頭を掻きむしりながらのたうち回っている(テストで20点しか取れなかった)」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「ズット頭ヲ掻イテイマシタガ、頭ガ痒イノデスカ?オ風呂ハイカガデス?」と言ってくる</p> <p>[解決] (非解決) (ロボットはお母さんに20点のテストを渡してしまう)</p>
34	<p>[問題]「4歳の男の子(主人公)はお風呂が大嫌いです。」「泣きじゃくって嫌がるので頭だけは洗うことができません。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「みんな生まれる前は、お母さんのおなかの中の水に浮いて守られていたんだよ。」と言って「お風呂セット」を置いていく</p> <p>[解決] (主人公は)「ママとロボットと3人で楽しくお風呂に入りました。」</p>
35	<p>[問題]「テスト(で)30点」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「大丈夫。今から近くの銭湯にいて現実逃避しにしよう。僕はつまづくといつもこうするんだ。それから勉強しよう。」と言う</p> <p>[解決] (お風呂に入ってから)「こつこつ勉強した。」</p>
36	<p>[問題] (ロボット視点で)「一番の親友である(主人公)が、床に頭を垂れて倒れこんでいる」「(主人公は)頭がかゆいんだ!」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは)「お風呂から走ってシャンプーとタオルを持ってきて(主人公に)渡し…『今日は僕が洗ってあげるよ!』と言う」</p> <p>[解決] (主人公は)「くすくすと笑いだした。しだいに笑い声は大きくな(る)」</p>
37	<p>[問題]「(主人公は)勉強と水泳を両立させること、テストで悪い点をとったら水泳をやめるという(約束をお母さんとした)…それにもかかわらず、(主人公は)今回のテストで悪い点をとってしまった」</p> <p>[解決のきっかけ] (見た目がロボットの神様が)「このシャンプーで髪の毛を洗うことで、過去に戻ることができるのだ。」と言う</p> <p>[解決]「過去に戻ってやり直すことのできた(主人公)は、勉強を怠らせずに、大好きな水泳も続けているのでした。」</p>
38	<p>[問題]「B子ちゃんから借りた…ハンカチに泥が染みついてしまっ(た)」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットは)「一生懸命きれいに洗ったらきっと汚れは落ちるよ。」と言い「洗濯セットを(主人公に)手渡した。」</p> <p>[解決]「協力してハンカチを洗い、染みついていた泥をきれいさっぱり落とすことに成功した。」</p>
39	<p>[問題]「今日も僕はテストにズタボロにされた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「背中洗いセット」を渡す。「これでお母さんとお父さんの背中を流してくるんだ。その後にテストを見せるんだよ。わかったかい?そしたら、少しは怒られなくてすむかもしれないよ。」</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
40	<p>[問題] (主人公は頑張ったテストの結果が悪くなくて)「泣き出してしまった。」「慰めてあげ(たいの)にできない)…だって僕は家事代行ロボット。家事しかできないのだ。」</p> <p>[解決のきっかけ]「この子(主人公)のために何かしてあげたいと思っ(て)…僕は(主人公に)差し出した。お風呂セットを。」</p> <p>[解決]「一類笑った後ありがとうと言って(主人公は)お風呂セットを持って部屋を出て行った。嬉しかった。喋ることができなくても僕の思いは通じたのだ。」</p>
41	<p>[問題]「今度のテストで良い点をとってお父さんとお母さんに褒めてもらおう!」(と思っていたが)「テストの結果が悪くなかった」</p> <p>[解決のきっかけ] (ロボットが)「一人で風呂入ってみる?それができたらお父さんもお母さんも喜ぶよ」(と提案する)</p> <p>[解決]「その日の夜男の子は一人で風呂に入り、お父さんとお母さんにたくさん褒めてもらいました。」</p>

42	<p>[問題] 「(主人公は) いつも一人ぼっちでいる」「うまく気持ちを言葉にして人に伝えられない自分にイライラしていた」</p> <p>[解決のきっかけ] 「イライラして頭を掻いているとロボットがシャンプーとタオルをそっと差し出した。『ありがとう…。』(主人公は) ジーンと心が温くなるのを感じた。ロボットは喋れないのに行動だけでこんなに僕の心を温かくしてくれる…。」</p> <p>[解決] (主人公は) 「大事なのは言葉じゃない, 気持ちなんだと気づいた。…うまく話せなくても小さなことでいいから人に優しく, 親切にしようと思った。今(主人公には) 沢山の友達がいる。」</p>
43	<p>[問題] 「僕は小学校の冬休みの課題である書初めをしていた。しかし文字が上手く書けなくて, 悩んでいた。次が最後の用紙だったのだ。ああどうしようと悩みながら頭を抱えていた。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「(ロボットが) やってきて墨を渡してくれ(て) …墨をたして最後の一枚頑張って書(こうとする)」</p> <p>[解決] (非解決) (「墨になぜか泡がついている…持ってきてくれたのは墨ではなくシャンプーだった」)</p>
44	<p>[問題] 「(近所のおばさん) がくれたシャンプーを使った」「とてつもなく臭い。」</p> <p>[解決のきっかけ] 「もう一度お風呂へ入ろう。」</p> <p>[解決] (不明) (解決に関する記載なし)</p>
45	<p>[問題] 「僕は自慢できるものが何もない」「運動も苦手」「僕だけ逆上がりができなくて, みんなに笑われた」「つまずいてゆみちゃんの絵に絵具をぶちまけてしまった。ゆみちゃんは泣いていた。」「今日は…宿題ができた」「何もわからなかったし, 逆上がりのことも, ゆみちゃんのことも, 頭から離れなくて, 悲しくて泣いた。」</p> <p>[解決のきっかけ] (お兄ちゃんがつくったロボットが支えてくれる)</p> <p>[解決] 「僕には自慢できるものが一つある。それは優しいお兄ちゃん。」</p>